

アイヌ傳承の星名* (上)

野 尻 抱 影

アイヌ土人の間に傳はる星名に就いては、私は直接採集したものは無い。小著“日本の星”には、間接にジョン・パチュエラ氏に問ひ合せた九種と、同じく金田一京助博士から示教を得た十種とに、新村出先生が嘗て“日本人の眼に映りたる星”“二十八宿の和名”の中に、江戸時代の蝦夷方言集藻汐草から引かれた星名二種を加へて載せて置いた。尤も、パチュエラ、金田一兩氏のものには自然に重複する星もあり、又、星以外の天象も含んでゐるので、星名としては宵の明星、曉の明星、北斗七星、北極星、三つ星、すばるの六種の他に彗星、流星、天の川がある程度である。

ところで、藻汐草なる方言集の名は、私は、上記新村先生の書かれたもので初めて知つたのだが、昨年の冬アイヌ研究家として有名な久保寺逸彦氏から圖らずも借用することが出来た。この本は、我が國アイヌ語學の先蹤をなす貴重な文獻で、久保寺氏が恩師金田一博士から譲られたものは、上下二卷ある再版本の上卷である。横綴ち紙數九十枚の木版本、タイトルには“蝦夷方言藻汐草 鈴驥園藏”とあり、序の終りに“文化元子年 白虹齋撰”とある。これでは著者は判らないが、別に“もしほ草 一冊”といふ初版本があつて、その跋に“寛政四年五月四日 通辭上原熊治郎 支配阿部長三郎”とある。前記白虹齋はこの蝦夷通辭と親交があつた本名最上徳内である。

内容は、天地、人物、支體、世事、口鼻耳目心、機財、鳥獸、草木、品目、助辭、熟語の十一部門に分類してあつて、天文關係のものは天地部に含まれてゐる。そして、その中の星名は前記のものゝ他に、火星、織女、牽牛があるし、何の星とも知れぬものに圖入りで“如此星”と附記したものも五種あつて、その穿鑿は興味がある。

以下、私は文化版の藻汐草を中心として星名を抜き、それらを、パチュエラ、金田一兩氏の星名、及び、最近の北大北方文化研究報告(第4輯)に載せられたアイヌ人平取コタンピラ、二風谷=シュクレクグル二氏述のローマ字綴り星名と比較して、註をも加へてみたい。但し、これには久保寺氏の示教を受けたものが頗る多い。

1. 星 ノチウ、リコップ、ケグ(?)

ノチウ、トンボ(パチュエラ氏)

リコップは rik-ot-p(上方に・ある・もの)で、即ち“星”の意義。

* 東亞天文協會紀要 O. A. A. Memoirs, No. 71.

2. 北斗 チヌカクル

チヌカラクル (パチェラ1氏)

チヌカルクムイ (金田一氏) 原意は *chi-nukar-kamui* (吾々が・見る・神) である。

chi-nukar-kur (久保寺氏) この *-kur* は“人”又は“男”で、例へば、*チヤコログル*(主人), *コタンコログル*(村長, 酋長)の類である。但し、アイヌ語では、*kamui* の“神”に對して“人”を *ainu* といひ、*-kur* は *-mat* “女”に對し男性を意味するのが原義で、*-kur* を“人”の意に用ひる時には、多少敬意を含む。延いては *-kur* を“神”に用ひることも多い。例へば *nupuri-noshike-un-kur* (山の中央の神 = 熊神) などの如く。それで結局、上記の *chinukarkur* も *chinukarkamui* と同義である。

3. 參宿 (三つ星) イウタニ

itutani nochiu 杵星 (久保寺氏)

イウタニは *i-uta-ni* (それを・搗く・木) で、藻汐草の器財部には“杵 ユタニ”とある。三つ星の縦一文字を杵の形に見たので、よく領ける名である。

レネシクル (金田一氏) 原意は *ren-eush-kur* (3人・そこについてゐる・神) である。

renushpe (久保寺氏) *-pe* は *-kur* と同義の接辭であるが、幾分か粗末な語法である。

4. 如此星 イワンリコブ

これは新村先生が“スバル星”と判ぜられたもの、*iwan* (6つ) *-rikotp* (星) で、この判断は誤りないと思はれる。アイヌには、スバルは6人のなまけ娘が星になつたとする傳説がある。なほ *iwan* (6) はアイヌの神聖視する數で、その神話・傳説・など等には絶えず此の數が出てゐる。

マツネイッケウ (金田一氏) *matue* (女) *ikkeu* (脊骨) である。スバルの形を女の脊骨に擬したこの名は、むしろ南洋の星名などに通ずるもので、アイヌと日本人との人種的相違を顯然たらしめるものと思ふ。

5. 太白星 ニシャツシャヲチ ヲチは *ot* の發音を *open syllable* にしたものであるといふ。

ニサツサオツ・ノチウ (パチェラ1氏)

ニサツチャオツカムイ, ニサツツォツカムイ (金田一氏)

藻汐草にも“曉ト1ベケル, ニシャツ”とある。正しくは *to-peker, nisat* で“曉, 夜明け, 黎明”である。ニシャツシャヲチは *nochiu* 又は *kamui* の取れた形であらう。金田一氏には、“朝の口にある神”と註があり、即ち曉の明星の金

星をいふ。

nisat-sa-ot, nisat-sa-ot-kamui (久保寺氏) 同氏は nisat(曉)-sa(低く)-ot(かゝる)-kamui(神)であらうと註されてゐる。因みに、この種の -sa は、屢々 sha とも發音され、轉訛して cha ともなるといふ。

6. 宵の明星 キンマチスルグル

アロヌマン・ノチウ, アロ・ノチウ (パチュラ1氏)

チコアッ・ノチウ (金田一氏)

ar-onuman(夕, 日暮) nochiu(星)の意。チコアッは原意不明である。尙ほ、久保寺氏はアロ・ノチウのアロを恐らくアロヌマンの訛りであらうとされてゐる。(つゞく)

観測部 總 報 (1)

観測部員の略記號の統一制定に就いて

観測部長 木邊成麿

今回、當會観測部に於て、観測部全員(一般會員も多少含めて)の略記號(ロマ字)を制定した。其の理由は、今迄の観測發表に當つては、各課で之を其の都度任意に定めて居たから、同一人でも課が異れば符號も異り、時には同一課内に於ても、發表の都度に依つて變化した場合すら散見されたからである。従つて、此の不統一を避けるべく、今後の各課の發表は、今回制定の略號を使用する事に定める。但し、一言斷つて置かねばならないのは、此の略號は、單に本會観測部の観測發表上に使用するために制定したものであつて、其の個人其のものの表示をする意圖は無い事である。其れと云ふのも、實は200名近い姓名を重複なしに2字で表示するのは(最大676名可能だが)或る種の姓では困難であつた。其の爲め、今まで度々使用されて居る観測者略號を優先的に採用した以外は、偶然名簿を拾つた順に一應、姓名から2字撰んだ。所が前言した様に、K, M, N, S, T, Yの頭文字は甚だ多いのに反して、B, C, D, G, J, L, P, Q, R, V, X, Zは僅少乃至絶無であり、又、中間文字としてもc, f, j, l, p, q, v, xが同様である。此の様な事實からして、重複を避けるべく3字略號にするか、或は、多少感じは失ふが、上述の字を使用して2字に攝めてしまふかの二途が考へられたのである。所で3字の場合には、成程、其の個人の姓名を略示する感じは優つて居ても、其れだけに、個有名詞の略號としての性格が強く、云はば當事者が勝手に定める事は多少行き過ぎになるかも知れないのと、(現に國名、